

弘果ブランドつがりあんアップル6品種の交雑親探索

—本県育成のオリジナル品種保護のための品種識別技術の確立と
ウイルスフリー優良苗の作出試験—

Investigation of parents for "Tsugarian Apples"

-Protection of original crop cultivars in Aomori by DNA markers and virus-free techniques-

五十嵐 恵・初山慶道・成田賢正*・大中 徹*

(*弘果総合研究開発株式会社)

県で育成したオリジナル品種は県の産業を支える重要な財産であり、他品種との差別化やブランド化の促進、権利侵害からの保護が必要である。そのため本事業では、DNA 情報を基にした品種識別技術を確立すること等を目的としてきた。また、品種の来歴等も品種普及において重要な情報であることから、多数の遺伝子型情報を交雑親の推定等に利用する技術の実践を図るため、交雑親探索を実施した。

県内民間育成者が育種開発した、弘果弘前中央青果（株）のオリジナルブランド「つがりあんアップル」6品種「大紅栄」、「幸寿」、「紅夏」、「栄黄雅」、「津軽ゴールド」、「黄明」は、今後も生産量の増加が期待される。このうち 4 品種は自然交雑に由来するため親が不明瞭であり、栽培及び流通面で支障が出る場合があることから、各交雑親を特定する必要が生じた。また、2 品種の両親は予測されているが、近年の DNA の調査により花粉親の誤り等が指摘される例も頻繁であることから、確認する必要があった。そこで、弘果総合研究開発（株）との共同研究のもとに、これら 6 品種の遺伝子型を 31 種類の DNA マーカーを用いて決定し、我々が所有するリンゴ品種の遺伝子型データベースと照合して、親候補となる品種及び組合せを探索した。その結果、「大紅栄」の片親は稀な遺伝子型を有し、普及品種ではないと推定された。他 5 品種については、以下のとおり両親または育成系譜が判明した。

